

437 中央大学柔道部大会

〔法学新報〕第26巻11(303)号 大正5年12月1日

○中央大学柔道部大会 近来めきめき発達を遂げ既に有段者二十名を有し都下有有力の一として知らるる吾部秋季第十一回大会は神無月の終り二十九日午前八時より中央大学大講堂に於て挙行せられぬ此日秋雨蕭蕭として肌尚寒きにも拘らず都下各大学専門学校及び中学校遠きは千葉埼玉方面より選手の参加するありて定刻前会するもの実に二百有余名盛會を極めたり午前本校学生紅白勝負は関、梅津両初段を大将として各組三十名互に猛戦せしか遂に大将副将二名の不戦者を残して紅軍の大勝する所と為る午後各学校選手三本勝負は有段者十三組、無段者六十組にして其中有段者勝負の結果左の如し

初段之部

×	田原 (講)	○	竹花 (講)	×	上野 (深)
×	梅津	○	関	×	嵯峨
○	岩崎 (真道)	×	吉田 (講)	○	萩原 (講)
○	近藤	×	小野	○	木尾 (深)
×	永井 (講)				
×	武田 (深)				
二段之部					
×	牧野 (講)	×	大窪 (高師)		藤 (早大)

(三浦 (深) 大部 ○市川  
 ○木村 (高師) × 水野 (深) ○中野 (早大)  
 (新妻) 田辺 (講) 刈田

次に部長代理佐藤幹事の挨拶ありて本日呼物の岡部四段への七人掛に移る其面は三段伊藤 (本校) 同佐藤 (講) 二段新妻 (本校) 同市川 (本校) 同藤本 (講) 初段嵯峨 (本校) 同小野 (本校) の猛者にて二段新妻まては何んなく倒されしか佐藤三段のネバリ強きには小小困したらん三段伊藤は力戦大に努め業ありまて取りしか遂に敗られ此間十九分、次て本校独特の勝抜高点勝負行はる無段者の部に於ては柿沼 (本校) 六人、渡辺 (本校) 三名を屠りて優勝す有段者の部結果左の如し

(初段関 (本校) 初段岩崎 (真道)  
 ○同 岩崎 (真道) ○同 小野 (本校)  
 ○初段小野 (本校) ○初段小野 (本校)  
 (同 萩原 (講) 二段木村 (高師)  
 (初段小野 (本校) 二段中野 (早大)  
 ○二段中野 (早大) ○二段市川 (本校)  
 ○二段市川 (本校) × 二段市川 (本校)  
 (初段萩原 (講) 初段小野 (本校)

遂に初段小野 (本校) 二段市川 (本校) 力闘せしか引分となる右終りて優勝者に賞品授与あり名譽の短刀は四段岡部 (高師) 二段市川 (本校) 兩名に、金メダルは初段小野 (本校) 一級柿沼 (本校) 兩名の手に帰す次て来賓及各選手へ饗応ありて午後八時散会す尚ほ当日日本多講道館幹事、五段三船、四段岡部、山

崎、藤、倉田、小田の諸高段者来場の光栄を有す終りに太田部長、佐藤幹事、永岡師範の労を深謝す (S. I.)